

平成30年度 両荘中学校 学校評価(学校評価検討委員会)

A できている B だいたいできている C あまりできていない D できていない

領域	評価項目	評価	自己評価の顕著な結果・意見等	学校関係者からの意見等	改善策
学力向上	「学習意欲を高めるためのわかる授業づくり」	B	<p>○90%以上の教師が「指導方法の工夫に努めている」と回答しているが、「体験活動を重視した授業作りに努めた」のは約40%であった。</p> <p>○生徒の約90%が「楽しくわかりやすい授業がある」と回答したが、「授業を通して興味や関心を持ったことがある」のは70%だった。授業では前向きに取り組んでいる生徒は多いように感じるが、自分で考えて見つけて学習するまでには至っていない。</p> <p>○保護者の約70%が「学校はわかりやすい授業を行っている」、60%が「生徒は学習内容をおおむね理解している」と回答した。</p>	<p>○「わからないところは自分で調べる、先生に聞く」という質問で、2年生の低さが気になる。</p> <p>○少人数なので(教師、生徒とも)学力や競争力にデメリットがあるが、逆に、一人一人に目が届きやすいというメリットもある。メリットを生かして学力向上に努める必要がある。</p> <p>○何かに特化して、これだけは他校に負けないものを見つけて欲しい。</p>	<p>○校内研修や研究授業の機会を設け、教師の授業スキルの向上に取り組む。</p> <p>○新しい教材の開発や、生徒が主体的に活動する場面を授業で展開できるよう工夫を図る。</p> <p>○教科を超えた教師間の情報交換を密にし、授業改善に努める。</p> <p>○学校運営協議会やPTAとの連携を図り、小規模校の特性を生かした取り組みを見つけたらいい。</p>
	「自主的・主体的な学習習慣と基礎学力のための家庭学習の定着」	B	<p>○「授業中、先生の話や他の人の発表を集中して聞くことができる」生徒は90%で昨年度よりも割合が増加した。「わからないところを自分で調べたり先生や友だちに聞いたりする」は昨年とほぼ同じ70%だった。</p> <p>○90%以上の生徒が「授業の用意や持ち物をそろえて登校している」と回答した。</p> <p>○「宿題や予習復習を行うなど、家庭学習を大切にしている」生徒は約60%である。</p>	<p>○オープンスクールなど生徒の様子を見る機会を増やして、保護者ももっと参加するようになったらいい。</p> <p>○家庭学習(宿題など)について、保護者が把握できていないところがある。学校から保護者に対しての働きかけができないか。</p>	<p>○家庭学習が定着するよう、課題の内容をどの生徒も取り組みやすいよう工夫する。</p> <p>○家庭学習の具体的な方法や目標設定を提示するなど、生徒の意識向上を図るとともに、学年通信や学級通信を通して保護者との連携を図る。</p> <p>○授業以外での補習等、生徒の学習状況に応じた個別の対応を推進する。</p>
規律ある生活	「望ましい生活習慣の育成」	B	<p>○問17「決められた時間を守っているか」に否定的な解答が多い。学校の決まりを守って生活しているに肯定的な解答が95%にもかかわらず現在の生徒の様子を見ると遅刻する生徒が多くなってきている。</p> <p>○良いところはそのままに是正したいが急に厳しい指導になると登校しにくくなる生徒も出てくる可能性もある。</p> <p>○「周囲に間違った言動があるときは注意したり、先生に報告するようにしている」という質問に対し、生徒の肯定的な回答は60%未満であった。お互いに指摘し合える関係づくりを促したい。</p>	<p>○欠席は進路に影響するが、遅刻は欠席にならないため甘く考えているのでは。</p> <p>○お互いに注意しあえる関係は作るべき。</p> <p>○厳しい指導も大切ではあるが、「なぜ遅刻してはいけないのか」「時間を守る意義とは何か」といった点を教えておくことで改善を図っていくことも重要である。</p>	<p>○進路決定のため「遅刻がいけない」ではなく、社会生活の基本であることを、生徒会活動や学級活動を通して考えたい。</p> <p>○遅刻が続く生徒には、個別指導を行うとともに保護者の協力を得る。</p> <p>○生徒会活動(S1グランプリ等)の活性化を図る。</p> <p>○道徳の学習などから得た学びを生活に生かすような取り組みを考える。</p> <p>○集団で生活する以上、全体指導が基本になるが、個人の課題に合わせた個別の対応が求められる。</p>
	「生徒理解と信頼関係づくりのための相談活動や個別指導の充実」	B	<p>○「相談できる先生がいる」という項目に対し、生徒の肯定的な回答は約60%にとどまった。昨年度より微増ではあるが、大きな課題といえよう。また「お子さんのことで、気軽に先生に相談できますか」という質問に対し、保護者の肯定的な回答は約70%であった。</p> <p>○生徒・保護者から信頼され関係づくりが望まれる。</p> <p>○教職員ごとに指導内容が異なり、違いが生じている。</p>	<p>○中学生になると家でも学校のことを話さなくなる。</p> <p>○現状の職員構成では勤務が長い先生で5年、多くの職員は1～2年の勤務である。他校での経験を参考に、本校にあった生徒指導のあり方を模索すべきではないか。</p> <p>○教育相談はありがたい。続けてほしい。</p> <p>○女性職員が少ないため、女子が相談しにくい可能性があるのではないか。</p>	<p>○教育相談週間等を活用し、生徒と個別にかかわる時間を増やす。また、部活動における教育相談を引き続き行い、いじめ等のない楽しい学校づくりを推進する。</p> <p>○教育相談の追跡を行い、かかわる機会や対話を増やさないか。</p> <p>○これまでの指導体制を踏襲しながら新たな取り組みを協議し、指導方針の共通理解を図る。また、女性のスクールカウンセラーやメンタルサポーターが配置されており、学級担任以外の女性職員とも気軽に相談できる体制を構築する。</p>
	「行事や部活動による良好な人間関係づくり」	B	<p>○「自分以外の人が困っているときは助けようとしている」という質問に対し、生徒の肯定的な回答は90%以上で、この結果から相互扶助の意識の高さはうかがえる。</p> <p>○「感動した学校行事があった」という質問に対し、昨年度の2年生(現3年生)の生徒の肯定的回答の割合の低さ(約43%)を前回指摘したが、現3年生の今年度の肯定的回答は約75%となった。</p> <p>○「部活動はたのしい(楽しかった)」という質問に対し、生徒の肯定的な意見は約80%であった。</p>	<p>○ボランティア活動への参加率は高い。</p> <p>○協力しようという気持ちは醸成しやすい環境にある。これからも積極的にボランティア活動を推進してほしい。</p> <p>○3年だけが主役になりがちであるという印象は確かに感じる。1・2年生がもっと充実感を持って参加できる学校行事を希望する。</p> <p>○部活動の活動日数は確かに減った。練習や活動を効率的に行う必要があるのではないか。</p>	<p>○行事において、1・2年生であっても達成感が得られる場所や方法を考える。</p> <p>○相互扶助の意識を保つため、生徒会活動やボランティア活動に対する積極性を育む。</p> <p>○部活動において達成感がさらに得られるよう、より上位の大会やコンクールへの出場をめざし各々が切磋琢磨する。</p> <p>○ノーマルデーを前提とした効果的なトレーニングや練習方法を考え、生徒たちが休日等をうまく活用できる工夫をする。</p>
豊かな心・豊かな環境	「道徳の授業と人権教育」	B	<p>○校内でのあいさつは改善が見られた。しかし、地域でのあいさつ等、不十分な面がある。</p> <p>○80%～90%の生徒が困っている人を助けたり、学級内の人間関係を良くしようとして回答している。しかし、自分の意見を言いやすい雰囲気を感じたり、間違った言動を注意したりすると解答した生徒は60～70%にとどまっている。教師に対しても自分の気持ちを分かってもらえているという安心感が薄い。</p>	<p>○道徳の感想・資料等を通信などで知らせしてほしい。家庭でも話題にしたい。</p> <p>○生徒はあいさつをよくしてくれる。</p> <p>○「相談できる先生がいる。」という質問に「そう思わない」「あまりそう思わない」と答える生徒の数が多。</p> <p>○生徒と話す時間と生徒の話を聞く耳をもつ必要があるのではないか。</p>	<p>○全校生であいさつ運動に取り組む。 ・授業でのあいさつの指導(語先後礼) ・あいさつの意義を教師と生徒が共通理解し、主体的にあいさつできる生徒を育成する。</p> <p>○道徳の授業研究を全校で深める。 ・研究授業の実施 ・発言を否定されない道徳の授業の雰囲気づくり。 ・教師のメンタルケアに関する研修。 ・周囲の「ありがとう」などの温かい言葉がけ。 ・間違った言動を注意することの大切さを根気強く生徒に伝える。</p>
	「心和む美しい学校を目指した環境づくり」	B	<p>○「学校はきれいで落ち着いた環境である。」との肯定的な回答が95%になっている。</p>	<p>○草が生えている面積が広くて、生徒のボランティアだけでは完璧にできない。シルバー人材センターの方にお願いするのもよいのではないか。</p> <p>○地域での奉仕作業が当たり前になっているので、生徒はボランティア活動をしているとはあまり感じていないと思う。</p> <p>○昨年度に比べて、生徒会活動でのボランティア活動が減ったように思う。</p>	<p>○掃除を行う意義や目的、掃除方法や無言清掃など、取り組む姿勢を生徒にしっかり伝える。</p> <p>○できたことをほめたり認めたりすることで生徒の「やる気」を育てる。</p> <p>○環境委員の生徒との協力で清掃道具の管理を徹底する。</p> <p>○シルバー人材センターや地域のボランティアの協力を得る。</p> <p>○地域ボランティアを継続し、地域に貢献できる生徒を育てる。</p>
信頼される学校	「学校生活の公開と広報活動の充実」	B	<p>○学校からの通信やPTA総会の資料を通して、学校の指導方針や取り組みがよくわかると思わない人、わかりやすく丁寧になっていると思わない人が増加。</p> <p>○保護者の来校する機会、配慮については昨年に比べて改善されているがまだ課題が残っている。</p> <p>○わかりやすい授業ができているという全体的な評価は変わっていないが、2、3年生において肯定的意見は減少、改善の必要を感じる。</p> <p>○生徒についても授業について、内容理解やわからないところでの解決については興味関心が低い。</p> <p>○保護者、生徒ともに2、3年生は相談できる先生が少ない。</p> <p>○学校行事については保護者、生徒も昨年度よりも感動あるものと解答した割合が増加している。</p>	<p>○個人情報の扱いが難しくなっている中ですが、写真の掲載はやはりわかりやすく見やすいので有り難い。</p> <p>○生徒から保護者へ通信が渡らないこともあるので、第何号かのナンバーリングは継続してほしい。</p> <p>○できれば、年間計画一覧表を4月に配布してほしい。</p> <p>○大きな行事の休日開催の継続。展示物を見る時間の確保。保護者も普段なかなかゆっくり見る機会がないので、きちんと時間を設けてほしい。</p> <p>○校区に住む高齢者に案内が行き渡るように、公民館を通じて町内会で回覧がまわるようにする。</p> <p>○保護者同士、保護者と教師の交流の場が少ないので、授業参観やOJHの後に学級懇話会のようなものを開けないか。</p>	<p>○両方の意見があることから更なる工夫が必要。通信については、写真・感想を継続して掲載。発行回数についても検討。</p> <p>○休日開催については継続。時間帯について検討(両中祭を午前中から等)</p> <p>○主体的・対話的で深い学び、わかる授業を展開するようICTの活用も含め、研修する。</p> <p>○内容理解・解決について積極的に取り組めるよう評価を含め、考える。</p> <p>○生徒との時間の共有、声かけ、学習面のサポート、認める言葉を発するなど接点を多くもつ。</p>